

第7期介護保険事業計画「取組と目標」に対する自己評価シート(令和元年度)

※「介護保険事業(支援)計画の進捗管理の手引き(平成30年7月30日厚生労働省老健局介護保険計画課)」の自己評価シートをもとに作成

保険者名	第7期介護保険事業計画に記載の内容				令和元年度(年度末実績)		
	区分	現状と課題	第7期における具体的な取組	目標 (事業内容、指標等)	実施内容	自己評価	課題と対応策
ふじみ野市	②給付適正化	認定者数が増加し、給付費も増加している。特に在宅サービスと居住系サービスが大きな増加を示している。このためケアプラン点検等により、介護給付の適正化に努める必要がある。	○ケアプラン点検の実施	ケアプラン点検の実施回数 (H30)(R01)(R02) 実施事業所数 6 6 6	ケアプラン点検実施事業所数:6箇所	○	計画値6か所に対し点検事業所数は7か所の予定であったものの、6か所の点検となった。介護支援専門員の資質向上に資する取組であるため、今後も引き続き点検員の確保に努め、指定の有効期間内に1回以上のケアプラン点検を実施していく。また、ケアプラン点検で指導した事項について、今までは指導対象事業所に対してのみ通知等行っていたが、居宅介護支援事業所に対する集団指導の際に一部公表することで、ケアプラン点検の結果をより広く活用する体制を構築していく。
ふじみ野市	①自立支援・介護予防・重度化防止	認定者数が増加しており、今後団塊の世代が後期高齢者となることに伴い、大幅に増加することが見込まれる。そのため、要介護状態となることの予防のために、一人ひとりの心身の状態に応じた介護予防を推進していく必要がある。	○ふじみんびんしゃん体操を軸とした介護予防事業の普及 ○介護予防サポーターの養成	①ふじみんびんしゃん体操普及啓発事業の実施回数 (H30)(R01)(R02) 実施回数 3 3 3 ②介護予防サポーター養成者 (H30)(R01)(R02) 人数 30 30 30	ふじみんびんしゃん体操普及啓発事業実施回数:5回 介護予防サポーター新規要請者数:80人	◎	令和元年度に「介護予防センター」を立ち上げたことにより、事業実施回数が目標を大きく上回る結果となり、介護予防サポーター養成人数も目標値を達成することができた。また体操に取り組むための通いの場も少しずつではあるが増えているものの、新たな通いの場の発掘及び体操に必要な備品の確保が今後の大きな課題となっている。
ふじみ野市	①自立支援・介護予防・重度化防止	本市の認定者全体に占める要介護1及び要支援認定者の割合は、凡そ50%程度となっている。要介護1以下の比較的軽度な認定者の要介護状態の軽減及び悪化防止のために、当該認定者の在宅サービスを支援する居宅介護支援専門員の医療・介護関連知識の習得等のための取組を行う必要がある。	○多職種研修会の開催	多職種研修会の参加者数 (H30)(R01)(R02) 人数 260 270 280	多職種間研修会の参加者数:423人 多職種研修会の開催人数:3回	◎	多職種研修会等の開催し、目標を大きく上回る参加者に対し、自立支援におけるアセスメントの重要性を周知を図る研修会を実施したところ、大変に参考になったとの声が多く聞かれた。今後も、他の職種との意見交換や情報共有ができる場として引き続き整備してゆくことを考えている。
ふじみ野市	①自立支援・介護予防・重度化防止	本市の認知症高齢者自立度がⅡa以上の人は55%を超えており、2,398人いる。(平成31年3月末時点)認知症を早期に発見し、適切な治療・支援につなげるとともに、認知症の方及びその家族を支えていく地域づくりが急務となっている。	○認知症初期集中支援チームの設置 ○オレンジカフェ(認知症カフェ)の開催	①認知症初期集中支援チームによる被支援者数 (H30)(R01)(R02) 人数 15 15 15 ②オレンジカフェの協力事業所数 (H30)(R01)(R02) 事業所数 13 14 15	認知症初期集中支援チームによる被支援者数:10人 オレンジカフェの協力事業所数:9箇所	△	目標とした指数を下回る結果になった要因として、認知症初期集中支援チームで支援したケースの一定期間のモニタリングが実施できなかったことが考えられることから、今後は支援のルールや地域包括支援センターとの役割分担について認知症地域支援推進員との連携会議等を通じ検討していくこととする。またオレンジカフェについても、周知方法や名称を工夫するなどして多くの当事者とその家族に参加してもらえような取り組みを検討する。